

## 画像データの切断

切断加工を行う場合は、アウトラインデータが必要となり、モノクロビットマップなどの画像ファイルは切断加工を行うことができません。

本技術資料では、CorelDraw を使用して、モノクロビットマップファイルの画像データをアウトライン化し、切断加工が可能なデータに変換するための方法を説明いたします。

※ 本資料では、CorelDraw2020 および Adobe Illustrator CS6 を使用します。

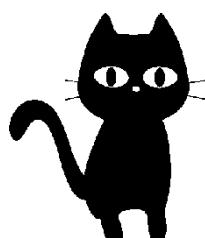
※ 本来は Adobe Illustrator 等を使用して、手作業で画像の輪廊をトレースして生成するアウトラインデータを、CorelDraw を使用して自動化します。Adobe Illustrator のプラグインを使用すると、同等の機能が出来る場合があります。

① 切断加工を行うモノクロビットマップデータを用意します。

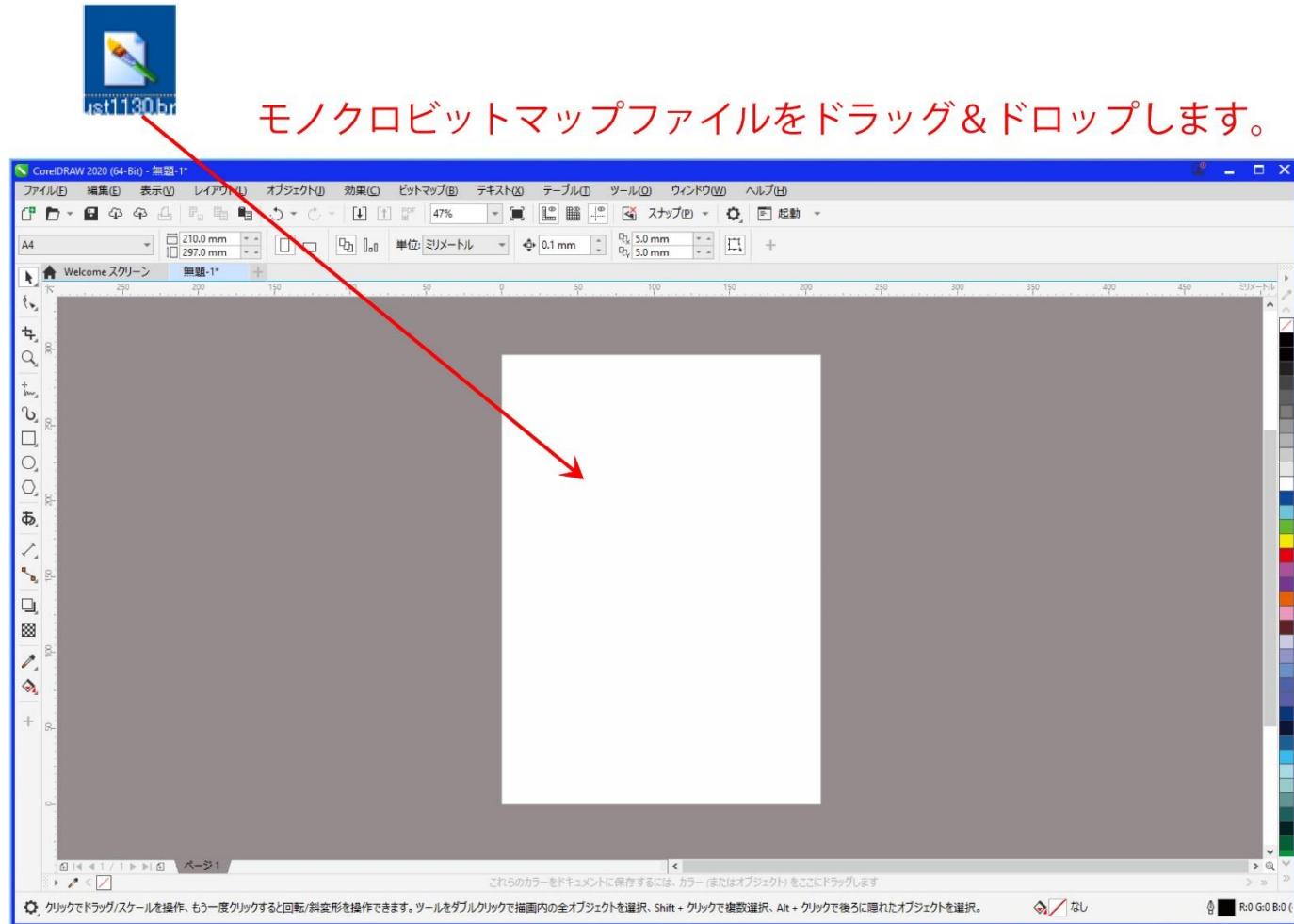
※ 階調付きの画像データでもアウトライン化は可能ですが、輪廊がジャギーになったり、意図通りのデータが生成されない場合があります。

※ 解像度が低いデータは、拡大した時に輪廊がジャギーになります。解像度の高い画像データを用意してください（300dpi 以上推奨 1016dpi が望ましい）。

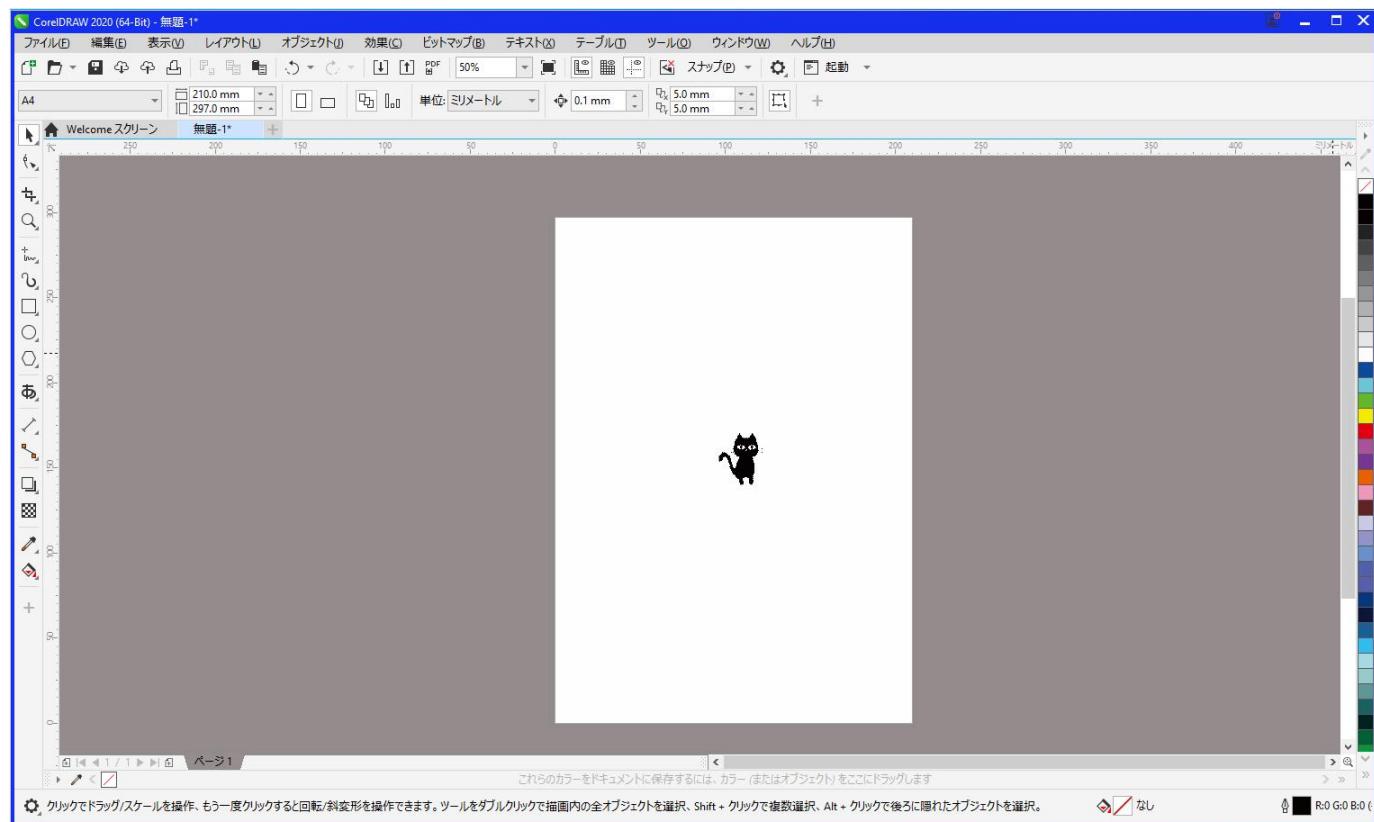
※ 細微なデータはアウトライン化が適切に行えない場合があります。



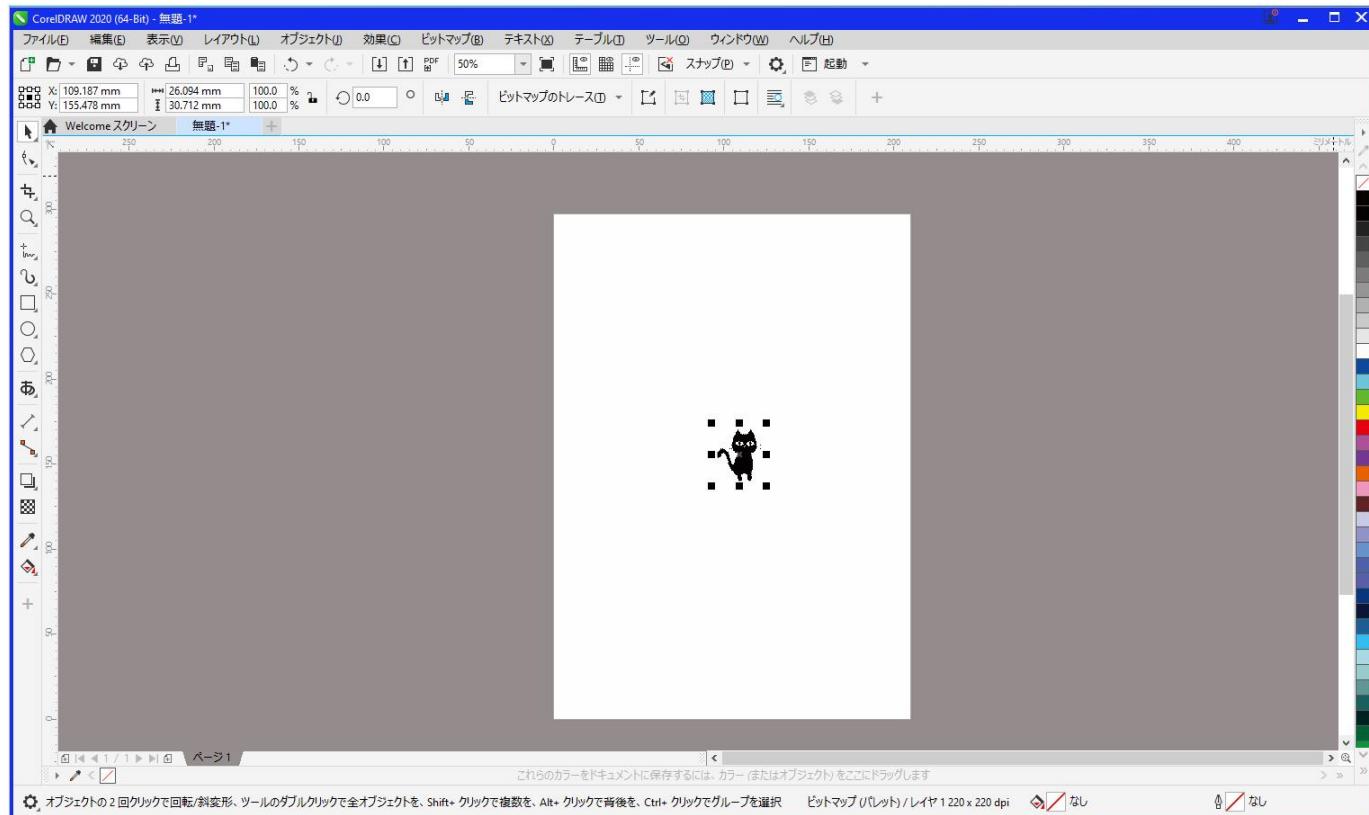
② CorelDRAW 2020 を起動します。画像ファイルをドラッグ&ドロップします。



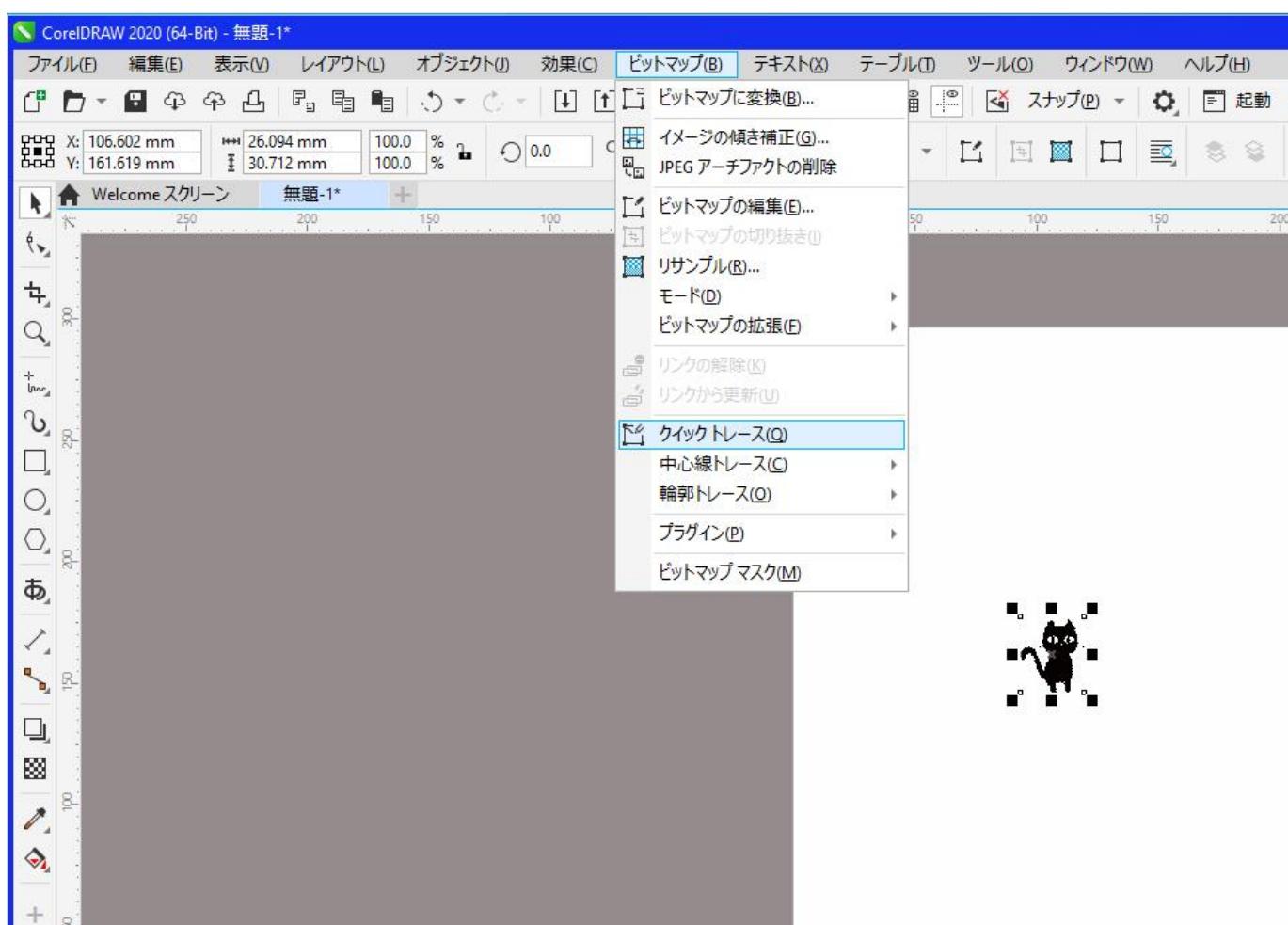
画像データが表示されます。



③ 画像をクリックして、選択状態にします。



④ メニューの「ビットマップ」を開いて、「クイック トレース」をクリックします。



画像データによって、警告ダイアログが表示されます。

## PowerTRACE: ビットマップ サイズが大きいので、縮小してください

トレース用に選択したビットマップは、現在のサイズ限度を超過しています。イメージ サイズを縮小しないと、パフォーマンスが低下する可能性があります。

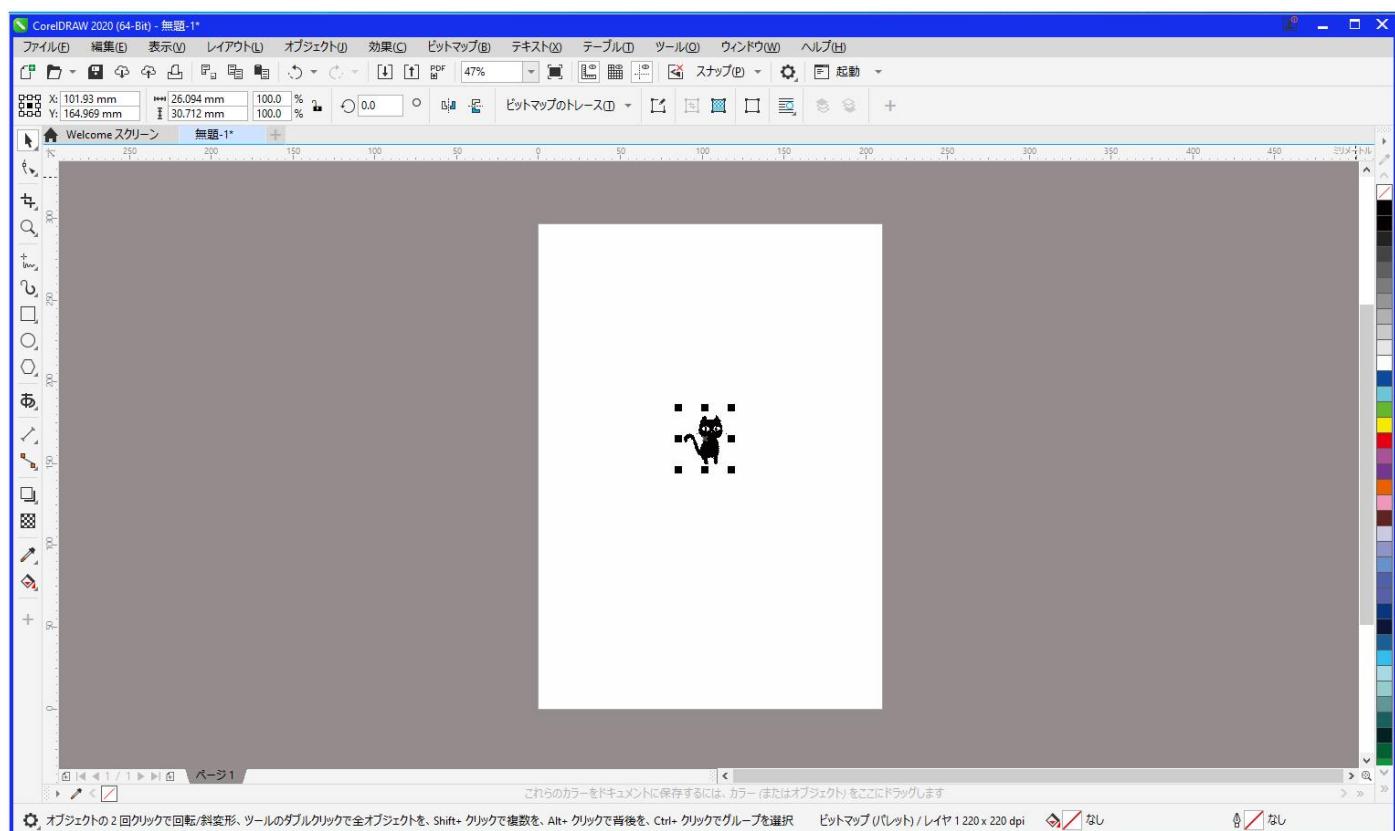
次に、ビットマップを自動的に小さなサイズにダウンサンプリングするには、[ビットマップの縮小] を選択します。ビットマップをダウンサンプリングしない場合は、[元のサイズを維持] を選択します。

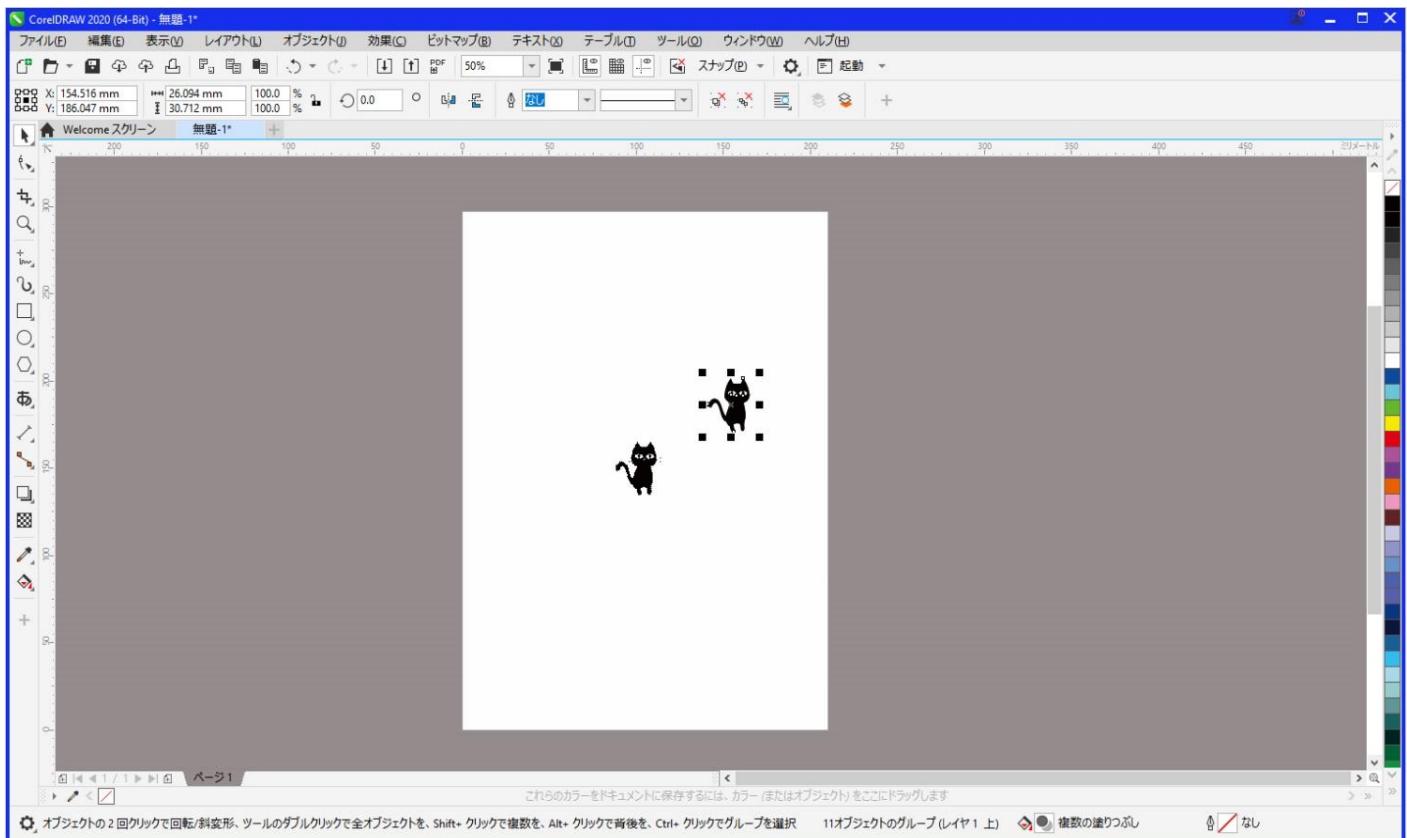
ビットマップの縮小

元のサイズを維持

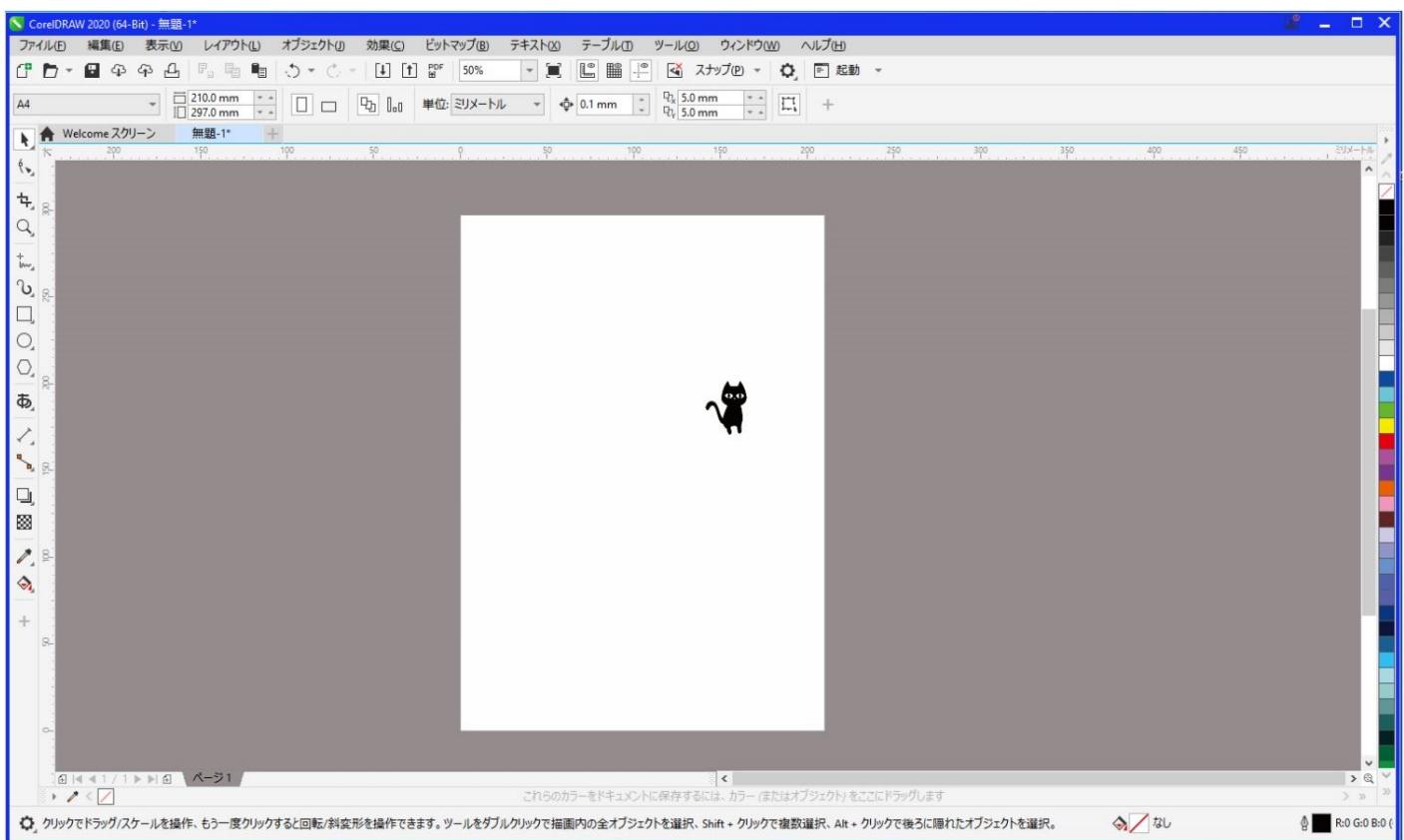
通常は「ビットマップの縮小」を選んで下さい。

⑤ もともとのビットマップ画像の上に重なって、アウトライン化されたデータが生成されますので、上に重なっているデータをドラッグ＆ドロップして移動させます。

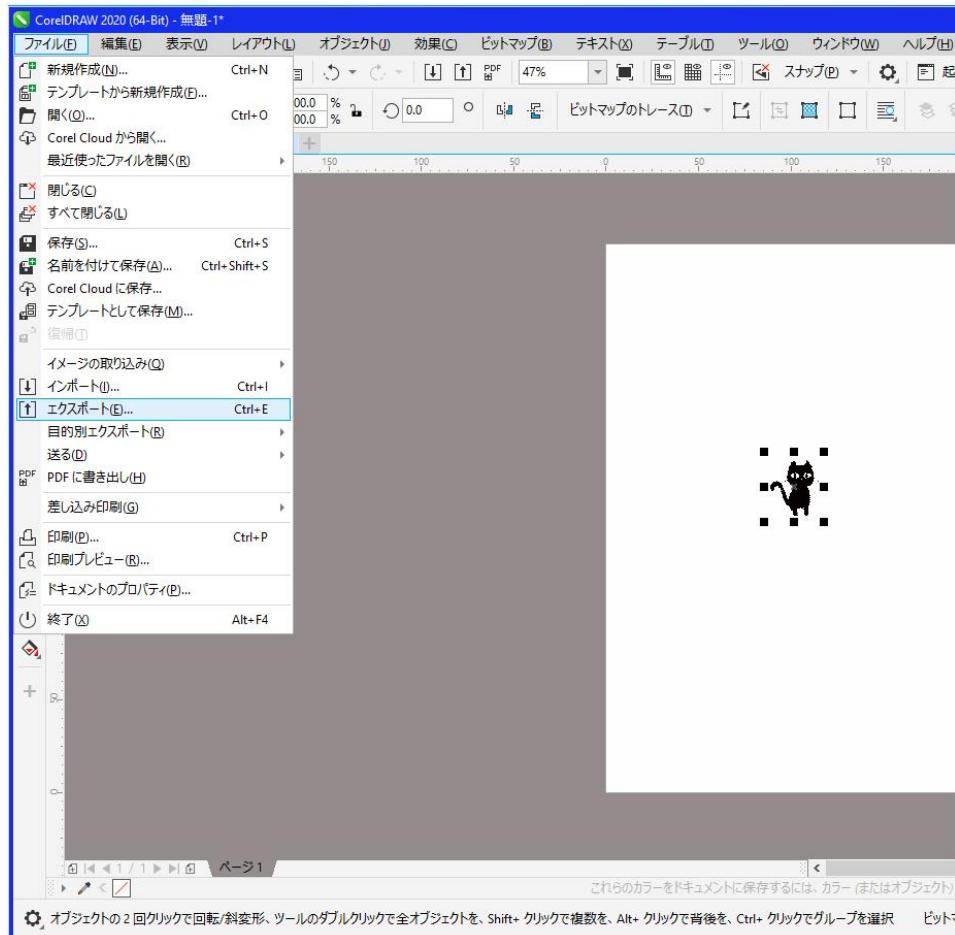




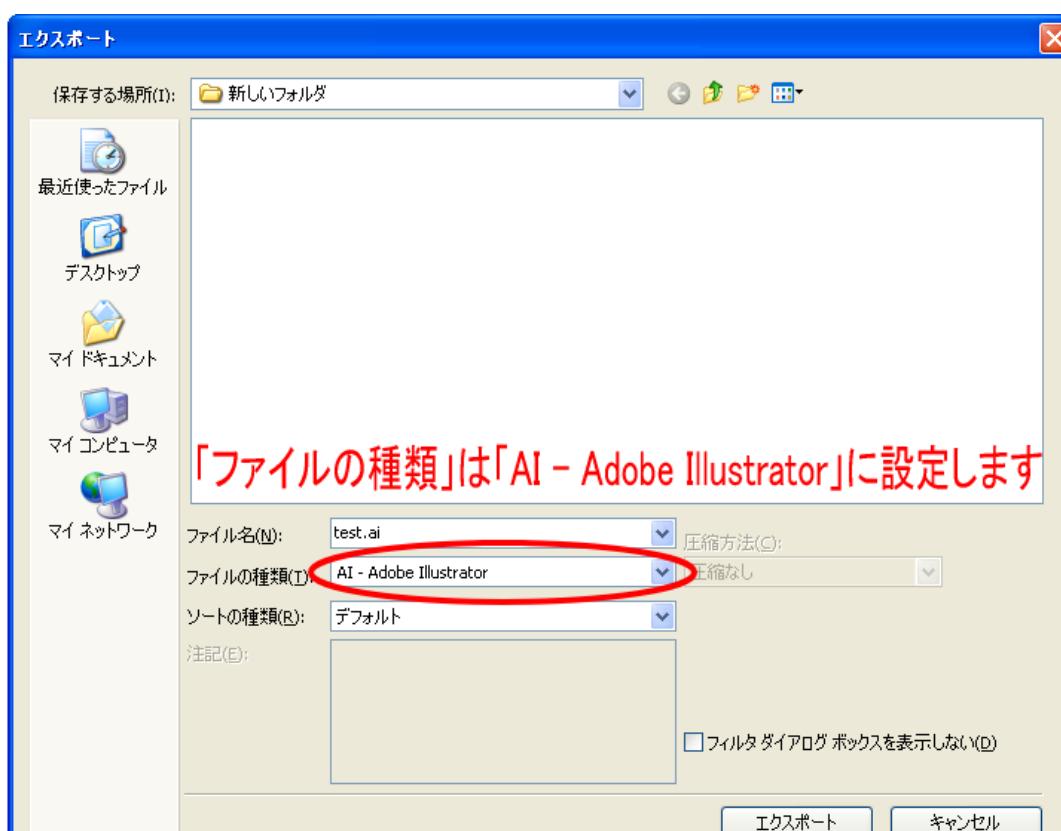
## ⑥ 元の画像データを削除してください。



⑦ メニューの「ファイル」の「エクスポート」をクリックします。

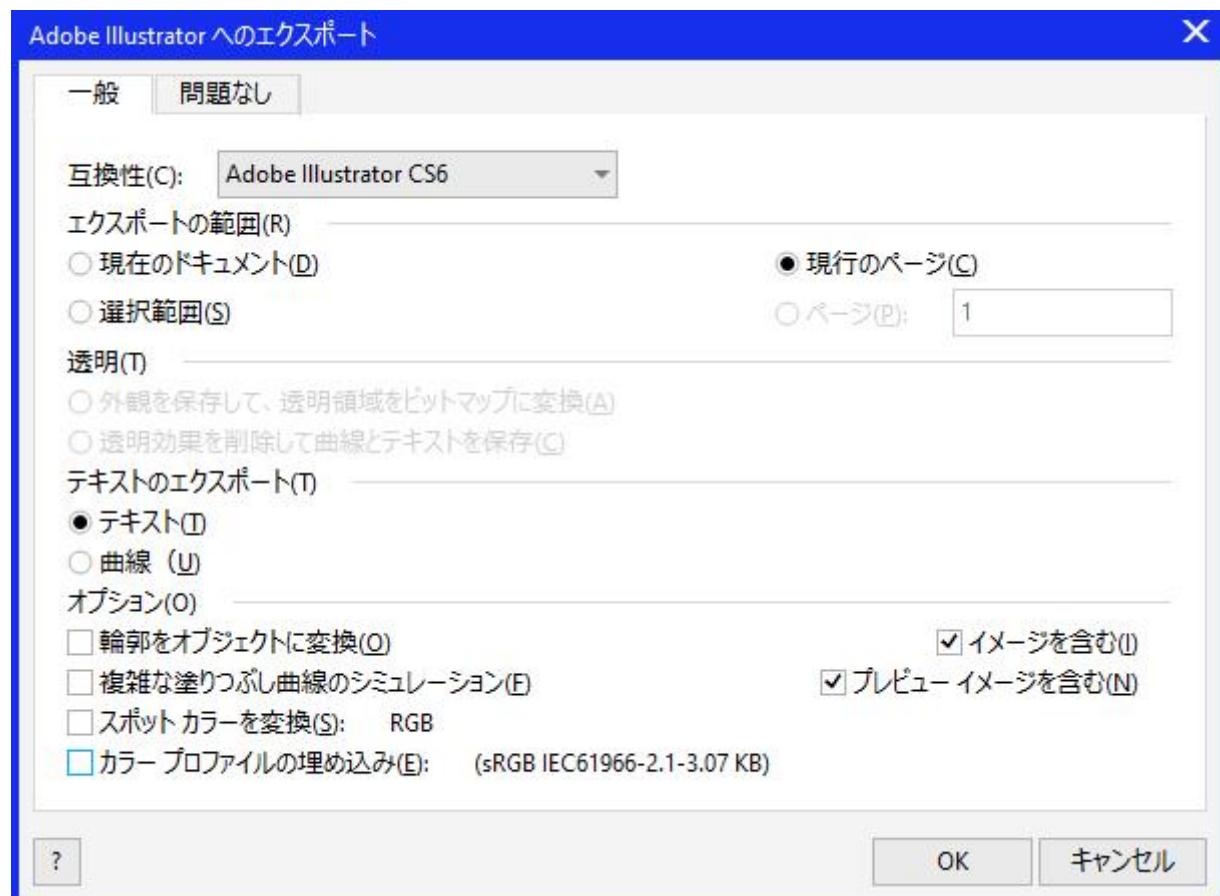


⑧ 「エクスポート」ダイアログが表示されるファイルの種類を「AI-Adobe Illustrator」にします。そして「エクスポート」ボタンをクリックして下さい。



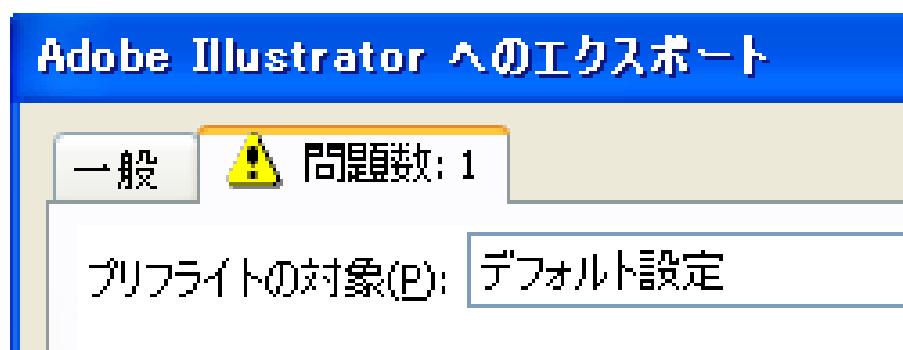
⑨「Adobe Illustratorへのエクスポート」ダイアログが表示されます。

特に設定を変更する必要はありません。

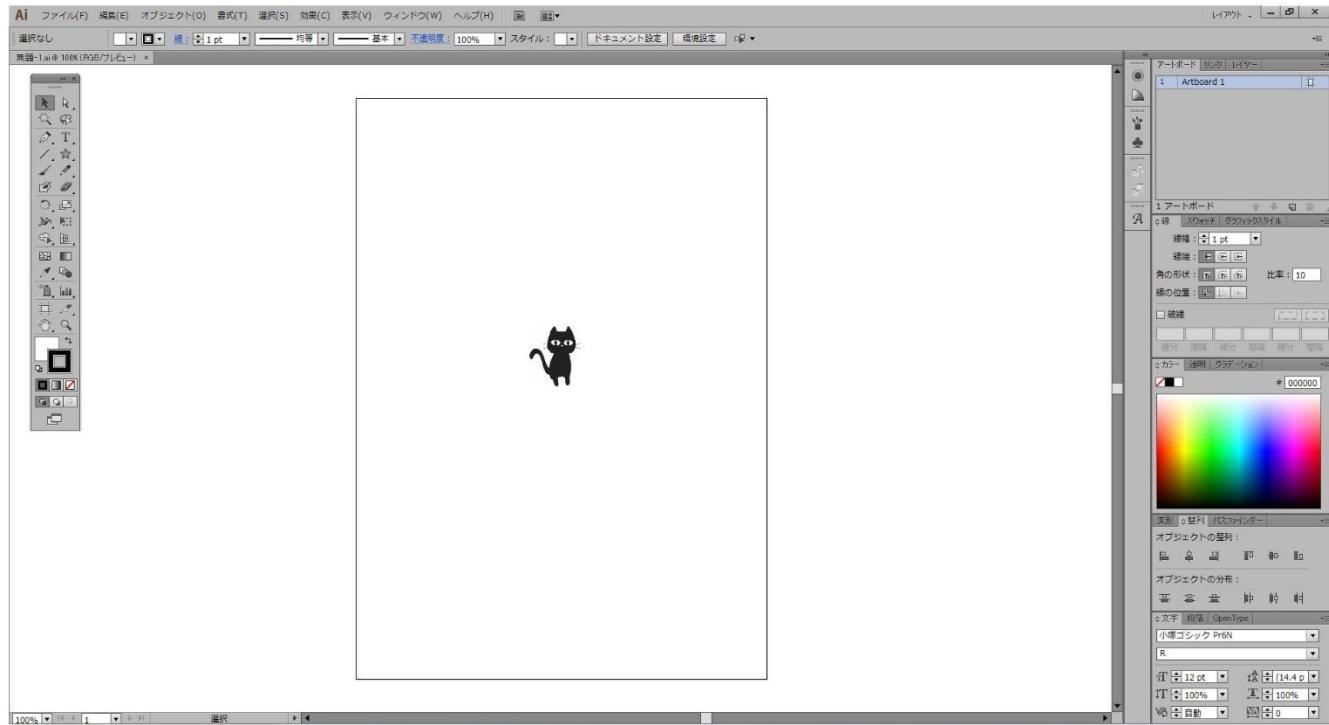


OK ボタンをクリックすると、データが保存されます。

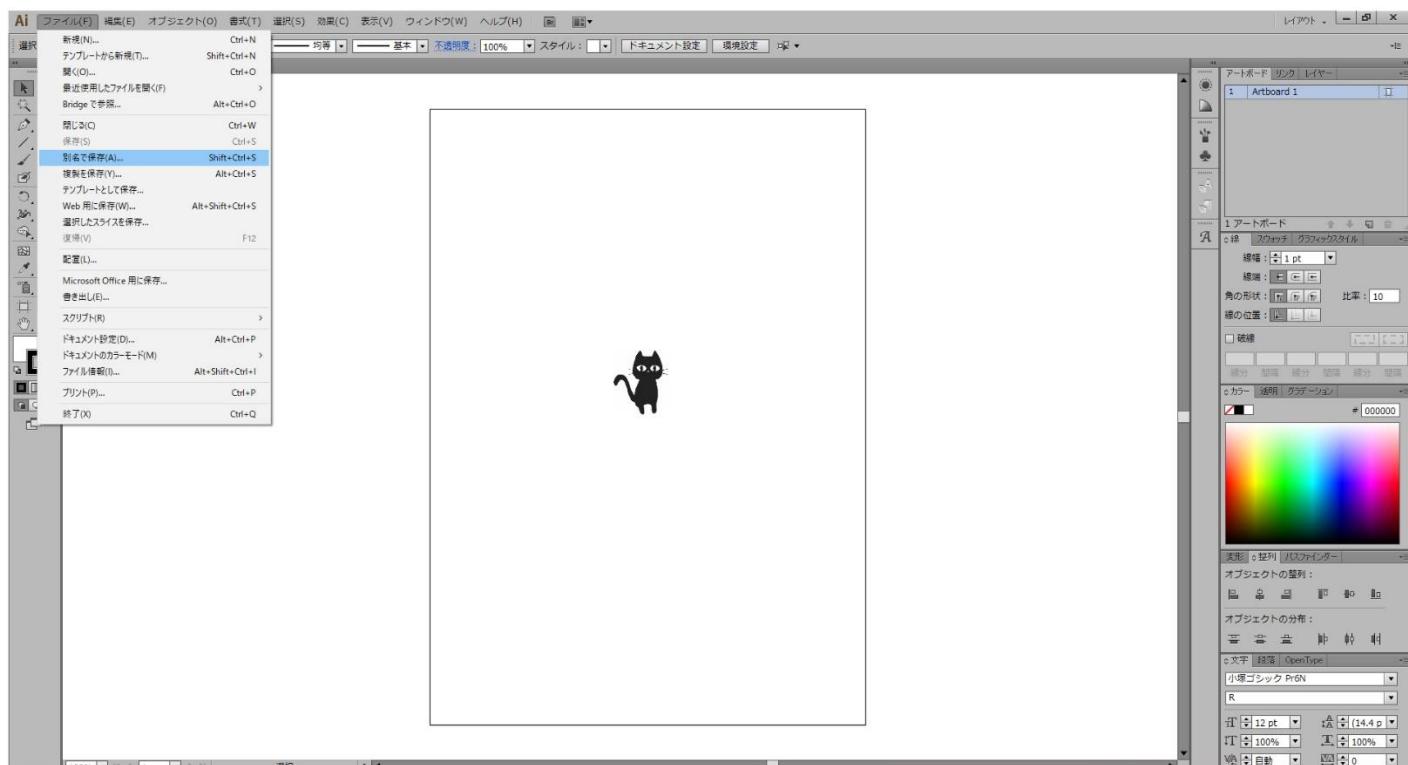
下図ダイアログではタブが「問題なし」となっていますが、データによっては、「問題あり」と表示される場合があります。その場合でも、ほとんどの場合は問題はありませんので、そのまま進めます。



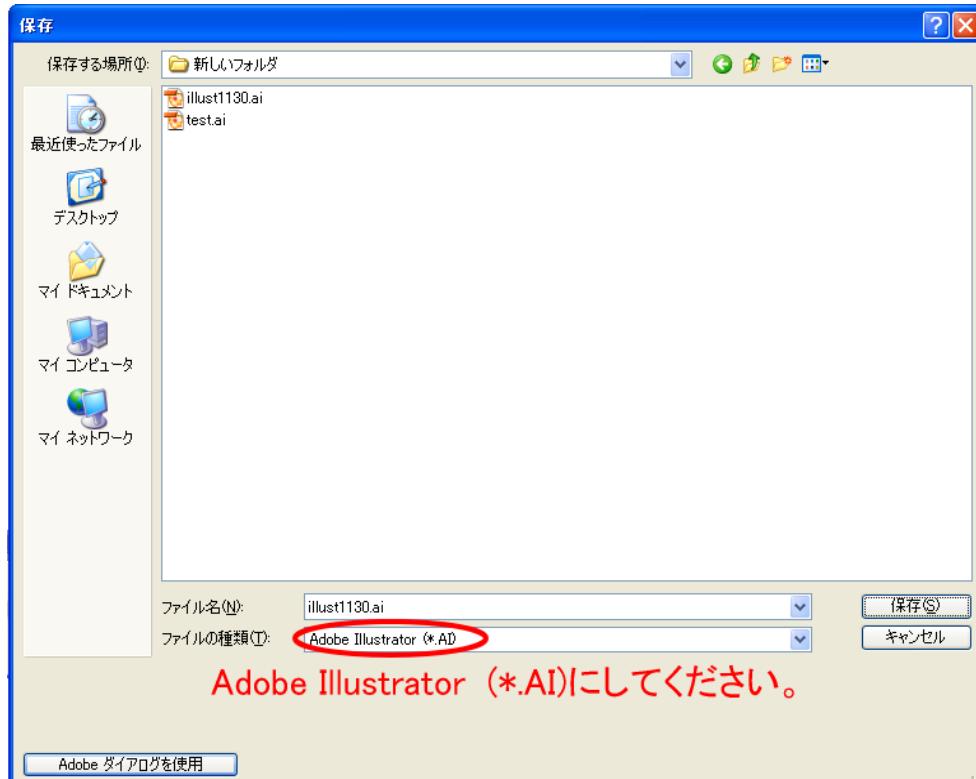
⑩ Adobe Illustrator を起動して、⑨で保存したデータを開きます。



⑪ Adobe アウトラインデータの修正が必要な場合は、修正を行い、メニューの「ファイル」—「別名で保存」をクリックします。修正が不要な場合は、そのまま「別名で保存」をクリックします。

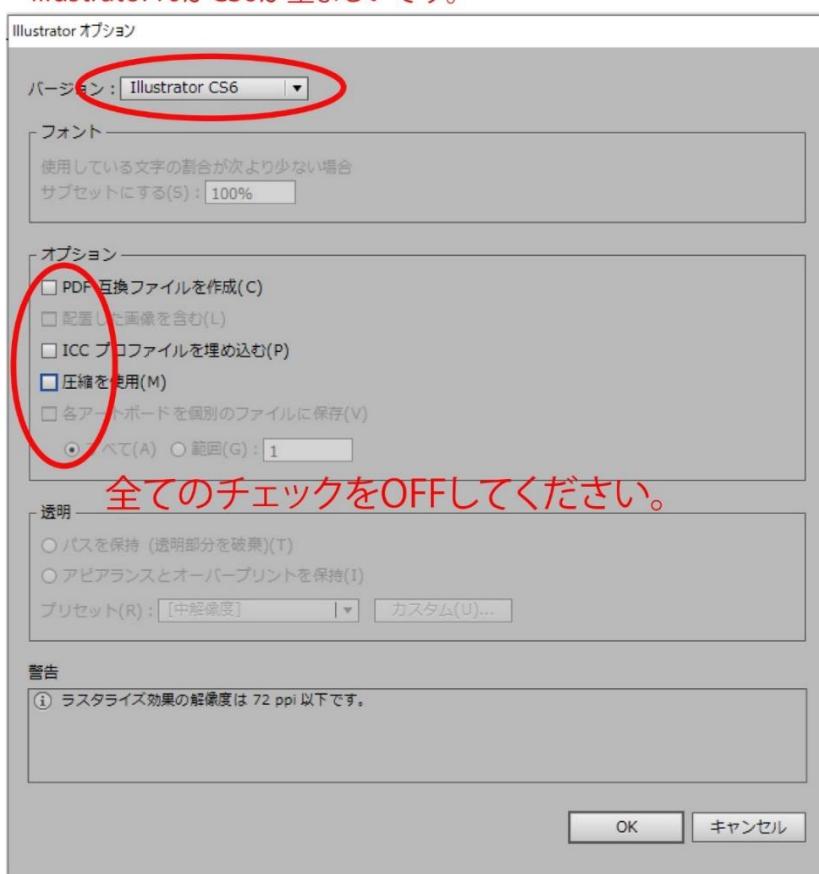


⑫ 保存ダイアログが表示されますので、ファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックします。

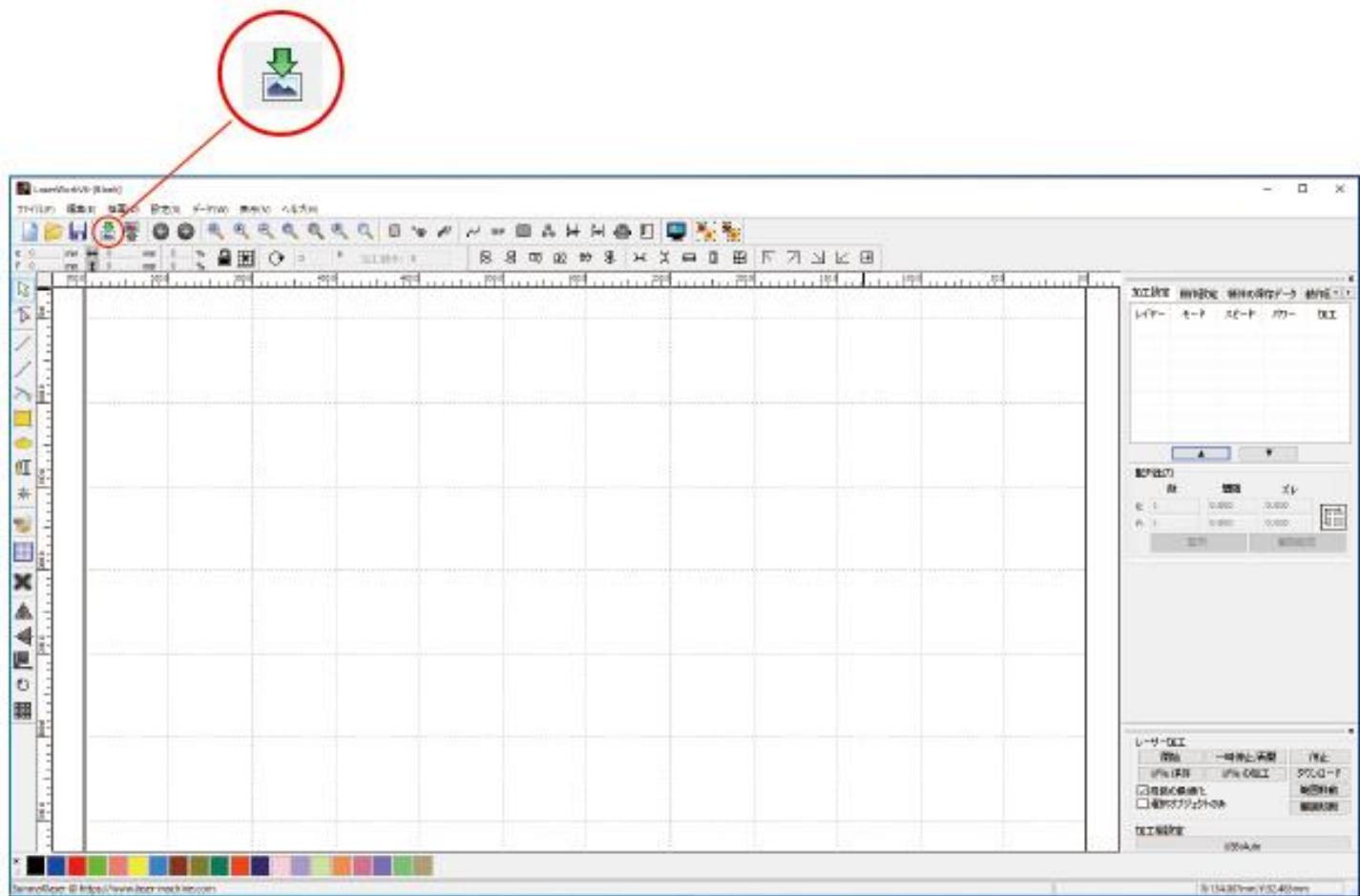


⑬ 「Illustrator オプション」ダイアログが表示されるので、全てのチェックを OFF にして、OK ボタンをクリックします。

Illustrator10かCS6が望ましいです。



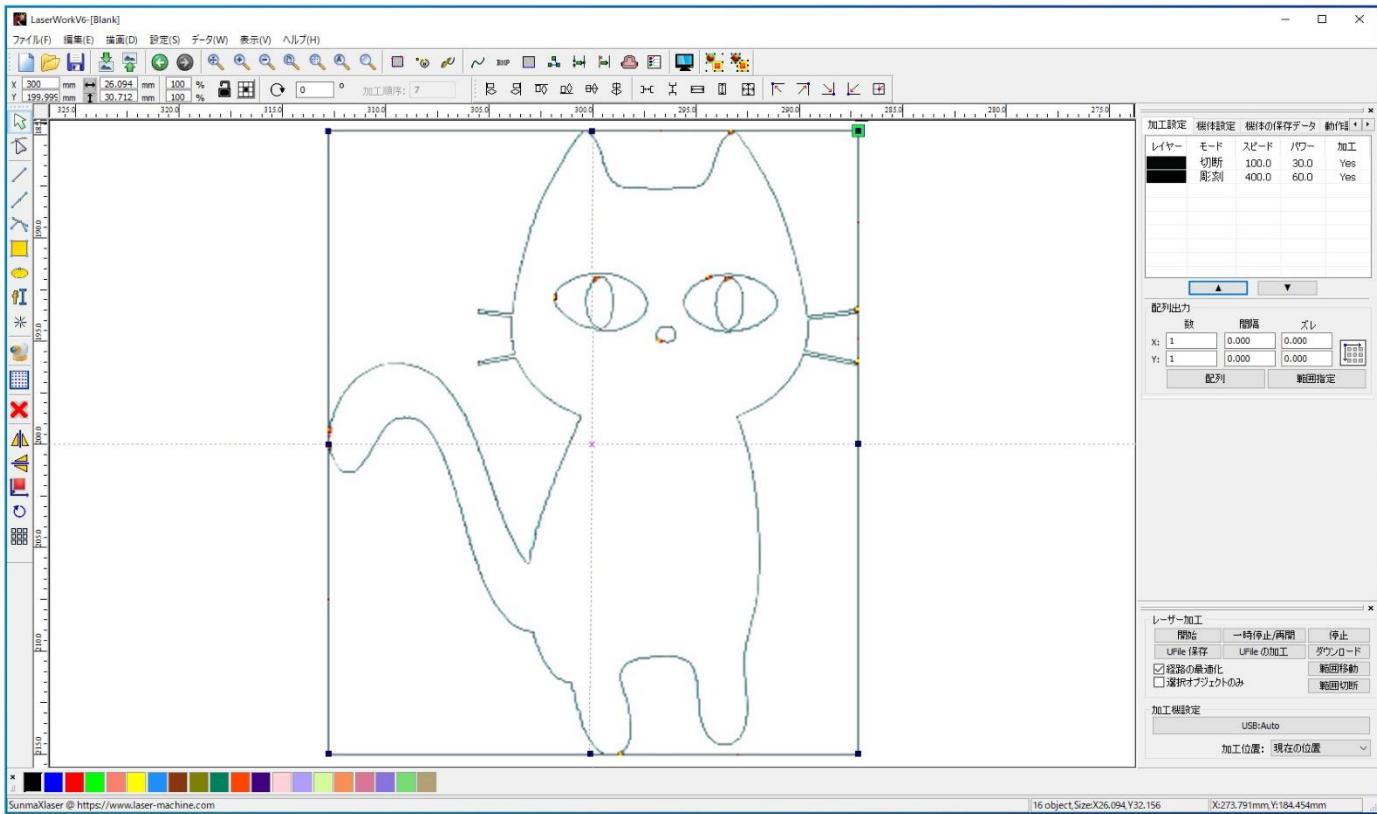
⑭ LaserWorkV6 を起動し、ツールバーの「インポート」をクリックします。



⑯ 「ファイルを開く」ダイアログが表示されるので、先ほど Adobe Illustrator で保存したファイルを選択し、「開く」をクリックします。



## ⑯ LaserWorkV6 にインポートされました。



## 注意点

元の画像データが複雑な場合は、細部が正しくアウトライン化できない場合がありますので、その場合は、LaserWorkV6 でパスの修正は行うか（LaserWorkV6 はノードの編集ができません）、⑩に戻って、Adobe Illustrator でパスの修正を行って下さい。

※ Adobe Illustrator で開いたとき、アウトラインの線色が透明の場合、LaserWorkV6 にインポートできない場合があります。線色は黒色に設定してください。